

PTA会報
NO. 38

さくら

編集・発行 2024年 3月 4日
神河中学校 PTA文化・研修部

神河中学校 13回生のみなさん 卒業おめでとうございます

3年1組



3年2組



3年3組



2年1組



2年2組



人との繋がり

PTA副会長 竹村 和世

世の中は日々目まぐるしい速さで良くも悪くも変化し、大人も子どもも不安なことが多いと思います。今の子育て環境は、情報を得ようとすればいつでも何でも検索でき、情報が多くて迷ってしまい、自ら不安な気持ちを作り出しているようにも思います。

私はPTA活動を通して、先生方をはじめ地域の方々が、愛情深く見守ってくださっている事をたくさん知りました。日々の生活の中では何気ない事かもしれませんが、多くの人たちに支えられていた事を、改めて感じる時がくるかもしれません。中学校で過ごした3年間の学びや、人と人との関わりや繋がり、すべてこれから先の人生の糧になると思います。前進するだけでなく、道に迷ったりつまずいたりするかもしれませんが、「自分は大丈夫」そう信じて、これからの人生を歩んでほしいと思います。

最後になりますが、校長先生をはじめ諸先生方には、子どもたちの成長を時には厳しく、時には温かく見守りながらご指導くださいまして、本当にありがとうございました。

2年生京都校外学習



2年3組



一年を振り返って

PTA副会長 高橋 吉治

今年、子どもとちゃんと向き合えていただろうか。本音でどれだけ話せただろうか。子どもは本音で話してくれただろうか。言いたいことを遠慮せずに話してくれただろうか。一年を振り返るとこんなことしか出てきません。正直に言うと、親としても不安な事が多かった一年、いや三年間だったと思います。

今の中学3年生は、小学5年生の3月に新型コロナウイルス感染症対策での不安を覚え、4月には緊急事態宣言が発せられ、以降マスク生活となり、中学3年生の5月でようやくマスクが外せるようになりました。子どもも保護者も少しの体調の変化や発熱に不安を覚えたり、時には学校行事との間でドキドキしたりもしました。

この3年間、子どもも保護者も家の中でさえ、お互いにマスクをしての生活、会話を強いられ、家族でありながらも表情が見えない会話となっていました。そのような中、少しでも体調が悪ければ「子どものため」「周りのお友達のため」と、仕方ないのですが病院等へ連れて行き検査を受け、幾度となく安堵したり自宅での待機を余儀なくされたりとならざるを得なかったわけですが、その際に、必要以上に大丈夫かと聞いたり、子どもから発する前に確認ばかりしていたように思います。この3年間は、ある意味、過保護になり過ぎていたのかもしれない。子どものためにならない行動を取っていたのかもしれない。

子どものためとは、子どもの将来のためということであると思いますが、子どもの将来とは、子どもが社会の一員として「自立して」生活することだと思っていながらも、今日はどう？大丈夫？などとばかり聞き、逆に、子どもからは調子悪ければ自分で言いますと言われ、子どもの方が自立し成長していました。私自身、子どもの成長に気付いていない、また過保護であるなど、反省しか無いのですが、子どもはしっかりと前を向いて歩いていると実感することができました。

一年を振り返ってみたものの、子どもも保護者も振り返ることも大事だと思いますが、振り返っても過去は取り戻すことはできません。これから高校生やいろんな道に進んでいくと思いますが、前を向いて進むしかないと思います。先生方には、しっかり前に進めるようご指導いただいた、成長を促していただき感謝しています。



「成長至上主義」

神河中学校校長 古河 享正

「成長至上主義」。

この言葉は、昨年、夏の甲子園で107年ぶりの全国優勝を果たした慶應義塾高校野球部の森林貴彦監督が使われていた言葉です。

慶應義塾高校の優勝に際して、当初私は、「経済的に豊かなので・・・」と特別視をしており、関心をもっていませんでした。実際、100人以上の部員に対し大学生スタッフ10人がコーチとして活動しており、どの高校でも実現可能な環境ではありません。また、「エンジョイ野球」を掲げていることに対してもスマートな印象だけが残って、否定的な見方をしていました。しかし、選抜大会の仙台育英高校の優勝とともに取り上げられた須江監督の言動とあわせて、高校野球の変化から時代の変化を感じるようにもなりました。

森林監督と須江監督は、それぞれ現役小学校教師と中学教師を経験されており、高校で日本一になるのがプロに行こうが「そこがゴールじゃない」という意識が根底には有るような気がします。須江監督は「日本一からの招待」というスローガンを掲げプロセス重視の考えを述べられていました。そして森林監督は、高校野球の「勝利至上主義」を否定し「選手としての成長」と「人間としての成長」が車の両輪となれば勝利にもつながる」という考えから「成長至上主義」を掲げるようになったそうです。

森林監督は、「子どもの心身は未熟な部分が多いからこそ伸びしろがあり、大人が特に手をかけなくても成長していきます。大人の役割は、その成長を邪魔せずに手助けすること。これがとても大事です。多くの大人が良かれと思い、子どもにあれこれと手を出しがちですが、それは逆に子どもの成長を阻害しているのではないのでしょうか。」と述べられていました。誤解があるといけないので、「大人が手をかけなくても～」という表現は、「放任しなさい」という訳ではありません。バラはバラの花、桜は桜の花、ヒマワリはヒマワリの花をつけるように、それぞれ個人の花を咲かせば良いということで、どちらが美しいか？などと比べるものではないという意味です。それに対して、大人はバラの花に「桜の花を咲かせなさい！」とか、桜の花に対して、「ヒマワリみたいに大輪の花を咲かせなさい！」と言っているのではないかということです。

また、自戒を込め言うならば、私たちは、「教える」ことばかりで「育てる」ことに意識が及んでいないということを指摘されてもいます。今の子どもたちは教えられすぎかもしれません。マニュアルやYouTubeを見れば全部教えてくれます。「育てる」ためには待つことや見届けること、「適度に」肥料を与えることが大切になるのにと思い当たることがあります。「主体性」と言いながら子どもに考えさせなかったり、自由をうばっていたり、大人の都合で動かしていることが多いのではないか。「向上心」を持って。将来のため、失敗してもいいから挑戦しろ」と言いながら、大人は固定観念にとらわれたまま、これまで通りのことしか取り組まなかったりしているのではないか。適度な肥料とは何かを考えなかったと自分自身反省する所がたくさん

あります。

先日、PTCA講演会で「イチローの恋人」と呼ばれる奥村浩治さんの講演会に参加しました。大谷選手もそうですが、この方も「運」を味方にする事の大切さを述べられていましたし、森林監督も同じようなことを述べられており共通する所がありました。「運」は向こうからやってくるのではなく、自分から掴むものだということです。そのために大谷選手はゴミ拾いをしていることは有名ですが、結局、「運」も人と人とのつながりだと思います。日頃、周囲から応援されたり感謝されたりするような言動をとっており、そのことが習慣として身についた魅力ある大人になっているからこそ、味方になってくれる人が周囲に集まり、そのつながりが縁で「運」の方からやってくるのだと思います。

「点数至上主義」「金儲け至上主義」「学歴至上主義」「勝利至上主義」……。子どもたちの周りには、健やかな成長を歪めてしまう様々な要素があるように思います。そして、それらの大部分は、自己中心的な個人の思惑ばかりではないでしょうか。20年後、今の子どもたちが親になる頃、AI化・超高齢化社会となっていることでしょう。その未来を見据えた現在、私たちに求められる力は、AIにできないことだといわれます。それは、「ケアと思いやり」「リーダーシップ」「創造」「人と人とのやりとり」などを挙げた人がいますが、いずれもデジタル化が難しく無形のものばかりです。さらに、「人生100年時代」とも言われます。保護者の世代も「学び続けることの大切さ」や「変化と向き合う力」は今後、さらに重要となるでしょう。子どもだけでなく私たち大人も含め、「成長至上主義」でいかねばならない時代がやってきたと感じています。

3年生修学旅行



“Where there is a will , there is a way”
～周りにやさしく、自分を大切にできる子に～

3年主任 山本 厚秀

13回生が入学するときに学年目標として“Where there is a will , there is a way”「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」を掲げ、そして共に歩んだ3年間もあとわずかとなりました。『勉強を頑張る人、部活動に熱中する人、クラスや行事でリーダーになってくれる人、自分の趣味や得意なことの力を伸ばす人』など色々な場面で子どもたちが活躍する姿を見ることができました。



この3年間で、色々な思い出はありますが、行事を通した子どもたちの成長が一番心に残っています。修学旅行では、初めて沖縄へ行くことになり、1年時から平和学習を1つの軸として取り組むことができました。また、沖縄でしか体験できないガマ見学もできました。修学旅行中にはJアラートがなったり、台風がきて1日延泊することになったりと、想定外のことも起きました。しかし、楽しむところは楽しみ、協力するところは協力し、我慢するところは我慢し、この学年の強みである優しい部分を普段と違う中でも感じるすることができました。体育大会では、本当に多くの子どもたちが、リーダーとなって、クラスや連合をまとめる姿に感心させられ、自分たちで行事を作り上げることができたと感じています。そして、合唱コンクールでの学年合唱では、子どもたちの迫力ある歌声に最高学年としての頼もしさを感じるすることができました。

そんな3年生もあと少しで卒業です。中学校の3年間でどのように「成る」かは、もう少し先にわかることだとは思いますが、みんなで笑って卒業式を迎えたいと思います。そのために、「為す」べきことは最後まで「為し」切りたいと思います。ご家庭でも協力よろしくお願いします。

できることを頑張った先の4月から、13回生はそれぞれの道を歩んでいきます。新しい場所でも“Where there is a will , there is a way”を大切にしながら、自分が活躍することで、周りに笑顔を与えられるような、優しくなれる人になってくれると信じています。カッコいい先輩として卒業しましょう。

3年生全員合唱 ～校内合唱コンクールより～



「礼法指導」

面接に向けて！

2023年12月5日、姫路女学院高校の石本先生をお招きし、礼法を含めた面接での心構えなどを教えて頂きました。

3年生



今回の礼法教室で、面接のときの会釈や普通礼の角度、入室や退室の動き、椅子の座り方、離れ方などたくさんのことを学びました。入って3秒で印象が、30秒で可否が決まることや志望理由は自分の弱みを見せず、短い文を並べて作ることと、あきらめない姿勢を見せ、笑顔を忘れず、すべての言動に注意することはものすごく大切であることを知りました。



そして、大きな声で明るく元気よくはっきりと面接官に「自分はここでないとダメ」とアピールしたり、敬語を正しく使ってここに受かりたいと表すことはむずかしいと思うけど大切なことだと思いました。

私は、推薦を受検しないけど、将来バイトとかの面接で絶対使うのですごく勉強になりました。面接は私が思っていたより何倍も緊張感がありそうで、しかも本当にちょっとしたことでもすぐ印象が変わってしまうんだと初めて知りました。私は、一番最初の人だとドアを開閉したり、初めに挨拶をしないといけないから大変だなと思ったけど、逆に他の人より挨拶が多い分、自分をアピールできるので良いなと思いました。私は、普段からすぐにあきらめてしまったりする部分があります。しかし、少しのミスをしてあきらめず自分の伝えたいことはしっかり全て伝えきって終われるように最後まで堂々と頑張りたいと思います。また、挨拶の仕方や、声、話し方などをもっともっと日々の生活にいかしていきたいです。もう少しで卒業式もあるので堂々とした態度でがんばろうと思います。今回学んだことを何度も繰り返して、当たり前のようにできるようにしたいです。



面接試験のときの入室の仕方や座り方、質問内容など、様々なことを教えていただきました。面接試験のとき、一番大切なのは「合格したい気持ち（心）を面接官に見える動作で表す」ことなんだと思いました。質問内容では、志望理由は絶対に聞か



会釈



敬礼



最敬礼

れると思うので、今のうちに考えておかenないといけないと思いました。これから高校入試や仕事をするときなど面接することが出てくると思うので今日教えていただいたことをしっかり覚えておきたいです。

ふるさと学習

スキー教室 in 峰山高原

インフルエンザの流行や大雪で実施が危ぶまれたスキー教室でしたが、無事行うことができました！良かった～。

～2024年1月25日実施～

2年生



スキーに行ったのが小学生以来で、最初の方は本当に滑れなさすぎて自分でもびっくりしました。止まらない、ターンもできない。リフトを降りたら止まれずこけてしまい、本当に絶望的でした。でも、同じ班の友だちやインストラクターさんのおかげで徐々にスキーのスキルが上達していき、最終的には、その日教わったすべての技ができるようになり、中級者コースも難なく滑れるまでに成長しました。最後は一人で滑れるようになり、本当に楽しかったです。（僕は、インストラクターさんに「暴走くん」と呼ばれていました。）



スキー場に着いたら、大きな粒の雪が降っていて、ふわふわの雪で滑れてうれしかったです。1年ぶりだったので、できるか心配だったけど、けがせず滑れてよかったです。10時くらいからお腹がすいていたので、昼ご飯のカレーはおいしかったです。今年のスキー教室では、閉講式で良い面も言ってもらえたりしたので、1週間後にある校外学習もスキー教室のように成功させたいです。

私は、滑れるかドキドキで朝は食欲がなかったけど、やってみたら意外と滑れてびっくりしました。インストラクターさんは優しいお姉さんがいいなって友だちと話していたら、本当に優しいお姉さんと男の人でよかったです。私が何かするたびに褒めてくれました。インストラクターさんは、アドバイスをくださったり、話しかけてくださったり、何よりスキーが上手くなれてとても楽しかったです。



2年生京都校外学習 2月1日



スキー実習

1月31日から2月1日までの間、ハチ高原スキー場に行ってきました。天候はあまり良くありませんでしたが、しっかりとスキーを楽しめました。

「スキー新聞」より

1年生



「みんなで全力で楽しめたスキー実習」

小学校4年生ぶりのスキーで、最初は心配だったけど、インストラクターさんが優しく教えてくれたおかげで、とても楽しいスキーになりました。また、夜は初めての宿泊行事で、みんなで寝るといのはやっぱり特別でした。就寝時間の22:30を過ぎてもみんなで喋ったのはとても楽しかったです。ちゃんと寝られるか心配でしたが、友達と話していると寝られないのも気にならないほどでした。そして一番楽しかったのは夜のレクリエーションです。「ダメウーマン」「ダンボールギーニ」が特に面白かったです。他の出演者もみんな全力でやっていますすごかったです。班対抗ゲームでもめっちゃ盛り上がったし、最後に食べたレクの景品のお菓子も美味しかったです。21時ぐらいにはすでに眠たかったけど、それも吹き飛ばくらい楽しかったです。スキーの実行委員には感謝しかありません！！

「初めてのスキー」

私は初めてスキーをしたので、最初は怖かったですが、だんだんと慣れてきて楽しかったです。坂道も林間コースもどちらも楽しく滑ることができました。インストラクターの方が、初めての私に分かりやすく教えて下さったおかげで滑れるようになったと思います。教えてもらったことを活かして、またスキーに行ってみたいです。また、一日目のスキーのあとにしたそり遊びや雪合戦もとても楽しかったです。本当に楽しいスキー実習になりました。実行委員のみなさん、ありがとうございました。



「友達と過ごせる時間の大切さ」

一番の思い出は“スキー”です。本当に楽しかった！最初はハの字で止まることすら難しくて、何度もすべってこけそうになりました。リフトも少しこわくて、大丈夫かな…とずっと思っていました。それが最後には方向も変えながらすべったり、ジャンプしたりできるまで成長しました。すべる前は、いやだな～と思っていたけど、今は、またすべりたいと思っています。これだけ楽しくスキーができたのもインストラクターさんが丁寧に教えて下さったからです。本当にありがとうございました。部屋では、5人でカードゲームをして、テレビを見て、話をして…いろんなことをして楽しかったです。友達とたくさんの時間を過ごして、“友達という楽しさ”というものを改めて実感しました。



「苦手からまたすべりたいという気持ちへ」

私はスキーはスピードは速いし、こけたら怖いので苦手な意識がありました。でも2日目からだんだん慣れてきて、友達と楽しくすべることができました。カーブを曲がったり、足を横に広げて止まったりして、林間コースを1回も転ばずにすべることができました。とても嬉しかったです。リフトに乗って友達と話をしながら盛り上がっていると、急にリフトが止ってびっくりしました。揺れてとても怖かったです。休憩の時に、タケノコニョッキをして全員で盛り上がりました。インストラクターの方がとても親切で感謝の気持ちでいっぱいです。ゴーグルとメガネのサイズが合わなかったりしたときや、ゴーグルが曇った時にも、優しく接してくださいました。本当にありがとうございました。レクリエーションの十八番大会や班別対抗ゲームでは、全員が1回は出場して楽しむことができました。最後に豪華景品があり、2組女子チームみんなでラムネを食べたのが一番の思い出です。



1年1組



1年2組



文化・研修部のみなさん

「感謝」

日和 優子

中学校生活3年間を振り返ってみて一番に思う事は「感謝」です。

息子が3年間、元気に楽しく毎日学校へ通う事ができたのは友達や先生方、地域やPTAの方々のおかげだと思います。

私はこの1年間、PTA役員として学校へ行く機会が増えました。初めての役員で何をすればいいのか、どんな仕事があるのか分かっておらず、私自身あまり役には立てなかったと思います。しかし、周りの役員さんや先生方のおかげで、役員会や奉仕活動、駐車場係など、何とかやり終える事ができました。そして、活動を通して行事のたびにたくさんの準備や作業があり、たくさんの人たちのおかげで学校生活が送れているのだと実感しました。

最近ではスマホばかり見ていて、私が話しかけても、「うん、まあ。」としかほぼ返事がない、そんな息子ではありますが、周りの人への感謝を忘れずに、残り少ない中学校生活を楽しんでもらいたいです。

一年を振り返って

多田 真也

今年度、PTA文化・研修部で活動に参加させていただきました。

交通安全運動、夏祭り巡回補導、奉仕作業などの活動を通じて熱心に取り組み、いつも温かく子どもたちの事を見守ってくださる先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

地域の方々、先生方のご協力のもと、より良い環境の中で子どもたちが3年間学校生活を送る事ができていると改めて感じる事ができる一年でした。

不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけしたことと思いますが、1年間全うできたのはサポートして下さった先生方やPTA役員の方々、保護者の皆様方のお力添えがあったからと感謝しております。

1年間ありがとうございました。



1年間、ありがとうございました。